

[2011/10/07]

## ◇講演のアウトライン

### 1. 現代ノルウェー王家(グリュクスボー朝)と歴史的過去としての中世

- ・グリュクスボー朝ノルウェー王室の男子成員:いずれも中世ノルウェー王家の男子名に由来する名を有する or 改名
- 例) ハーラル 5 世(現国王) <ハーラル美髪王

### 2. ハーラル「美髪王」をめぐる中世の伝承と彼の位置付け

- ①ノルウェーを歴史上初めて統一:「蓬髪」→「美髪王」の願掛け  
※ハヴルスフィヨルドの戦い:近現代ノルウェーにおいて(も?) 記念碑的位置付け
- ②後代のノルウェー王家の始祖:王家、ハーラルの末裔<母ラグンヒルの夢

### 3. 「サガ」:物語と歴史/伝承の形成過程を解きほぐす試み

- ・①②両挿話:ハーラルが生きたとされる時代より数百年後の記録しか残っていない
- ・『ヘイムスクリングラ』:ジャンル「国王サガ」=ノルウェー歴代の王朝絵巻  
作者:アイスランド人著述家スノッリ・ストゥルルソン(1178/9-1241)
- ・歴史家の関心:「史実」の探求→後世にどのような背景で伝承が書き換えられたのか

### 4. 「美髪王」伝承はどのように形作られたのか:ハーラル 3 世「苛烈王」と伝承

- ・10 世紀のスカルド詩:戦いに勝利した「蓬髪の」ハーラルしか伝えない
- ・「美髪王」の二つ名:元来ハーラル 3 世「苛烈王」のもの→「蓬髪」のハーラルに移し替えられる
- ・苛烈王とその子孫の王家:権力掌握を正当化する手段として同名の「ハーラル」活用

### 5. 王位継承争いの中での「美髪王」伝承の意味:ハーラル 4 世「神の僕王」

- ・ノルウェー史における 1130-1240 年:王位をめぐる争いが激化  
海外から死んだ王の落胤を名乗り訪れる王位請求者:ハーラル 4 世、スヴェッレ
- ・「大樹の夢」:2 人のハーラルを正統な王家の始祖とし、両者の血を引かない対立党派の王から正統性を剥奪する政治的プロパガンダ
- ・スヴェッレ朝ノルウェー王とアイスランド人著述家の共同作業の産物

### 6. 独立前夜のノルウェー:『ヘイムスクリングラ』とノルウェー人にとっての歴史的過去

- ・『ヘイムスクリングラ』:19 世紀に脚光を浴びる
- ・中世:独立志向する当時のノルウェー人にとっての栄光の時代想起、その象徴としてのハーラル「美髪王」
- ・新王家を迎える直前(1900 年):普及版としての「国民版」ノルウェー語訳刊行事業

## まとめ

[2011/10/07]

### 史料抜粋 A:『ヘイムスクリングラ』における王国統一をめぐる挿話

ハラルド王は一人の乙女に使いを立てた。彼女はホルダランの王エイリークの娘でありギュザという名だった。そして、ヴァルドレスの権勢あるボーンディ(豪農)のもとに養育に出されていた。彼女を王は自分の妾として迎えたいと考えていた。絶世の美人であり、また、気も強かったからである。使者はその地に到着し、彼女に対し使いの用向きを伝えた。彼女はそれに対し、いくつかの郡より広大な王国を統治していない王には、自分は操を捧げるつもりはない、という返事をした(中略)。ギュザはその場で使者達に言葉をかけ、ハラルド王への言付けを頼んだ。それは、ハラルドが全ノルウェーを彼女のために自らの傘下に従え、かつ、スヴィショーズ(スウェーデンの古名)のエイリーク、あるいはデンマークのゴームの如く権勢をもって、障害なく統治を行おうとした後、彼女は彼の妻となっても良い、というものであった。彼女はこうも言った。「そうしてはじめて、彼は(ノルウェーの)「民の(上に立つ)王」と呼べる存在となるだろう、と私は思うのです」。

(中略)そして、ハーラルはこう語った。「彼女は私に、あることを思い起こさせてくれた。そのことに以前に考えが及ばなかったとは、奇妙なことではあるが」。そして、こう続けた。「私は以下を宣言し、そして私を創造し、万物を統べる神(単数)の名において誓いを立てる。全ノルウェーを租税や貢納もろともにわがものとし、統べるまでは、わが髪を切ることもしなければ、梳ることもない。さもなくば、死あるのみだ」。

(『ハラルド美髪王のサガ』34章)

### 史料抜粋 B:大樹の夢:王家家門の始祖としてのハーラル「美髪王」

王妃ラグンヒルドはゆゆしき夢を見たが、それは彼女が先見の才に恵まれていたからである。彼女が見た夢は、次のような内容であった。彼女は庭に立ち、一本のとげを衣から引き抜いた。彼女がそれを手にしている間にも、とげは成長して長い枝になり、片方の端は地面に達してすぐさま根付き、もう片方の端は空中高く伸びていた、そして見る見るうちにその「木」は彼女が上まで見透かすにはあまりに丈高くなり、また、非常に太くなった。幹の最下部は血の如く赤かったものの、上の部分は鮮やかな緑であり、[樹冠の]枝は雪の如く白かった。そして、幹からは数多くの立派な枝が上下に生え出していた。樹冠も非常に発達し、彼女にはノルウェー全土を、そしてさらに境界を越えた先を覆っているように思われた。(『ハルヴダン黒王のサガ』6章)

賢者たちは、<美髪王>ハラルドは、諸人中にあってもっとも見目良く、強力であり、財物を惜しまず、家臣の人心をあまねく集めていたと語る。彼はその生涯の初期にあっては優れた戦士であり、そこから、ハラルドの誕生前に母親が夢見た大樹を人々は以下のように読み解いた。いわく、幹の一番下は血の如く赤く、上にいくにつれて鮮やかな緑になる。[前者は彼の戦士としての事績を、] 後者は、彼の王国の繁栄を予見したものである。そして、樹冠の白きさまは、彼が年老い、白髪となるまで生きることを象徴する。また、大小の枝は、彼の子孫がノルウェー全土に広がることを示している。そして、これ以後ずっと、彼の家門よりノルウェーの諸王が輩出されてきたのだ。(『美髪王のサガ』42章)

[2011/10/07]

参考文献抄録

(一次史料・翻訳)

- Ágrip af Nóregskonungasögum, útg./ þyd. Matthew J. Driscoll (London: Viking Society for Northern Research, 1995; 2008).
- Cubbin, G. P. (ed.), *The Anglo-Saxon Chronicle: A Collaborative Edition*, vi: *MS D* (Cambridge: D. S. Brewer, 1996). [*The Anglo-Saxon Chronicles: A New Edition*, trans. Michael Swanton (London: Phoenix, 1996).]
- Ari Þorgilsson. *Íslendingabók*. Í: ÍF I, útg. Jakob Benediktsson (Reykjavík: Hið Íslenska Fornritafélag, 1968), bls. 1-28. [中島和男訳「アイスランド人の書」日本アイスランド学会編『サガ選集』(東海大学出版会, 1991 年) 1-19 頁].
- Fagrskinna*. Í: ÍF XXIX, útg. Bjarni Einarsson (Reykjavík: Hið Íslenska Fornritafélag, 1984), bls. 55-364. [*Fagrskinna, A Catalogue of the Kings of Norway*, trans. Alison Finlay (Leiden: Brill, 2004).]
- Finnur Jónsson (úrg.). *Morkinskinna* (København: Jørgensen & co., 1932). [Theodore M. Andersson & Kari E. Gade (trans.). *Morkinskinna: The Earliest Icelandic Chronicle of the Norwegian Kings (1030-1157)* (Ithaca, NY: Cornell UP, 2000.)]
- Historia Norwegie*, ed. Inger Ekrem & Lars B. Motensen/ trans. P. Fisher (Copenhagen: Museum Tusulanum Pr., 2003). [拙訳「『ヒストリア・ノルベジエ (ノルウェー史) *Historia Norwegie*』本文及び解題」『北欧史研究』26 (2009 年) 68-101 頁].
- Snorri Sturluson. *Heimskringla*, útg. Bjarni Aðalbjarnarson, 3bd. (Reykjavík: Hið íslenska Fornritafélag, 1941-51). ÍF XXVI-XXVIII. [谷口幸男訳『ヘイムスクリングラ: 北欧王朝史 (全4巻)』(プレスポート/北欧文化通信社, 2008-10 年)].

Jónsson, Finnur (útg.), *Den norsk-islandske skjaldedigtning*, B-1, 3bd. (København, 1912-1915).  
Skaldic Poetry of the Scandinavian Middle Ages <<http://skaldic.arts.usyd.edu.au/db.php>>  
[最終アクセス: 2011/10/02]

(二次文献)

- Andersson, Theodore M. “King’s Sagas (Konungasögur).” In: *Old Norse-Icelandic Literature: A Critical Guide, with A New Preface by Theodore M. Andersson*, ed. Carol L. Clover & John Lindow (Org. Ithaca, NY: Cornell UP, 1985; Toronto: UTP, 2005), pp. 197-238. MART 42.
- \_\_\_\_\_. *The Growth of Medieval Icelandic Sagas (1180-1280)* (Ithaca, NY: Cornell UP, 2006).
- Ármann Jakobsson. *Í leit að konungi: Konungsmýnd íslenskra konungasagna* (Reykjavík: Háskólaútgáfan, 1997).
- Askedal, John O. & Klaus J. Myrvoll (red.). *Høvdingen: Om Snorre Sturlasons liv og virke* (Oslo: Vidarforlaget, 2008).
- Bagge, Sverre. *Society and Politics in Snorri Sturluson’s Heimskringla* (Berkeley-London: U of California P, 1991).
- Clunies-Ross, Margaret. *Prolonged Echoes: Old Norse Myths in Medieval Northern Society, ii: The Reception of Norse Myths in Medieval Iceland* (Odense: Odense UP, 1998).
- \_\_\_\_\_. *The Cambridge Introduction to the Old Norse-Icelandic Saga* (Cambridge: Cambridge UP, 2010).
- Fidjestøl, Bjarne. *Selected Papers*, ed. Odd E. Haugen & Else Mundal/ trans. Peter Foote (Odense: Odense UP, 1997).

北欧文化協会 2011 年度 10 月例会(於:京橋プラザ市民館)  
「ハーラル美髪王:建国伝承とノルウェー人のナショナル・アイデンティティ」(成川 岳大)  
配布資料

[2011/10/07]

- Hastrup, Kirsten & Preben Meulengracht Sørensen (red.). *Tradition og historieskrivning: Kilderne til Nordens ældste historie* (Århus: Aarhus Universitetsforlag, 1987). *Acta Jutlandica* 63:2.
- Holmsen, Andreas & Jarl Simensen (red.). *Rikssamling og kristendom* (Oslo: Universitetsforlaget, 1967). *Norse historikere i Utvalg* 1.
- Jochens, Jenny. "The Politics of Reproduction: Medieval Norwegian Kingship." *American Historical Review* 92-2 (1987): 327-48.
- Krag, Claus. "Norge som odel i Harald Hårfagres ætt: Et møte med en gjenganger." *Historisk tidsskrift* (N) 68-3 (1989): 288-302.
- \_\_\_\_\_. *Vikingtid og rikssamling 800-1130* (Oslo: Aschehoug, 1995).
- \_\_\_\_\_. *Norges historie fram til 1319* (Oslo: Universitetsforlag, 2000).
- \_\_\_\_\_. "Myten om Hågfagreættens 'odel': En svar til Knut Dørum." *Historisk tidsskrift* (N) 81 (2002): 381-94.
- Lange, Gudrun. *Die Anfänge der isländische-norwegischen Geschichtsschreibung* (Reykjavík: Bókautgáfa Menningarsjóðs, 1989). *Studia Islandica* 49.
- McTury, Rory (ed.). *A Companion to the Old Norse-Icelandic Literature and Culture* (Oxford: Blackwell, 2005). *Blackwell Companions to Literature and Culture*.
- Narikawa, Takahiro. "Marriage between King Harald Fairhair and Snæfriðr, and their Offspring: Mythological Foundation of the Norwegian Medieval Dynasty?" *Balto-Scandia Extra* ed. (2011): 111-36.
- Sawyer, Birgit. "The 'Civil Wars' Revisited." *Historisk tidsskrift* (Norsk) 82 (2003): 43-73.
- Sawyer, Birgit and Peter H. Sawyer. *Kings and Vikings: Scandinavia and Europe AD 700-1100* (London: Methuen, 1982).
- \_\_\_\_\_. "Adam and the Eve of Scandinavian History." In: *The Perception of the Past in Twelfth-Century Europe*, ed. Paul Magdalino (London: Hambledon, 1992), pp. 37-51.
- Ström, Folke. "Poetry as an Instrument of Propaganda: Jarl Hákon and his Poets." In: Ursula Dronke et al. (eds.), *Specvlvm Norroenvm: Norse Studies in Memory of Gabriel Turville-Petre* (Odense: Odense UP, 1981), pp. 440-58.
- Sverrir Jakobsson. "'Eindringen om en mægtig personlighed': Den norsk-islandske historiske tradisjon om Harald Hårfagre i et kildekritisk perspektiv." *Historisk tidsskrift* (N) 81 (2002): 213-30.
- Turville-Petre, G. "Dreams in Icelandic Tradition." *Folklore* 69-2 (1958): 93-111.
- Turville, Petre, Joan. "The Genealogist and History: Ari to Snorri." *Saga-Book* 20 (1978-81): 7-24.
- Veia, Marit S. (red.) *Rikssamlingen og Harald Hårfagre, Karmøy, 10. og 11. juni 1993* (Karmøy: Karmøy Kommune, 1993).
- Von See, Klaus. "Studien zum Haraldskvæði." In: Id., *Edda, Saga, Skaldendichtung: Aufsätze zur skandinavischen Literatur des Mittelalters* (Heidelberg: Carl Winter, 1981), S. 295-310.

#### (二次文献・日本語)

- 小澤実・薩摩秀登・林邦夫『辺境のダイナミズム』(岩波書店, 2009年).
- 熊野聰『北欧初期社会の研究:ゲルマン的共同体と国家』(未来社, 1986年).
- 同「地域・「民族」的統合と北欧の王権」[角田文衛・上田正昭監修/初期王権研究委員会編『古代王権の誕生:IV ヨーロッパ編』(角川書店, 2003年) 153-81頁].
- 阪西紀子「中世ノルウェーの「王のサガ」とフェーデ:『ヘイムスクリングラ』をめぐるナショナルイズムの問題」[『一橋論叢』118-2 (1997年) 235-51頁].
- 百瀬宏・熊野聰・村井誠人編『北欧史』(山川出版社, 1998年).